

調査・研修等計画届出書

令和 7 年 7 月 17 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 馬嶋 みゆき

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和 7 年 8 月 27 日から 8 月 28 日まで（1泊2日）	
調査先・研修名	第20回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌	
会場名（会場所在地）	札幌文化芸術劇場（北海道札幌市中央区北1条西1丁目）	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	テーマ：地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて（仮） ・基調講演 「主権を預かる誇りと責任（仮）」 元衆議院議長 伊吹文明 ・パネルディスカッション 「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える（仮）」 ・課題討議 「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告（仮）」 を通じて、全国的な動きや傾向、先進事例を学ぶことで、本市議会との差異を知り、今後の議会活動の向上に繋げていく。	
議長名の依頼	要 ☒ 不要	依頼先（名称）
同行者名	長江公夫 松原大介	

※行程表を添付してください。

調 査 ・ 研 修 等 報 告 書

令和 7 年 10 月 27 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 馬嶋 みゆき

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和 7 年 8 月 27 日から 8 月 28 日まで（1 泊 2 日）
調査先・研修名	第 20 回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌
会場名（会場所在地）	札幌文化芸術劇場（北海道札幌市中央区北 1 条西 1 丁目）
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	テーマ：地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて ・基調講演 「主権を預かる誇りと責任」 元衆議院議長 伊吹文明 ・パネルディスカッション 「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」 ・課題討議 「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」 を通じて、全国的な動きや傾向、先進事例を学ぶことで、本市議会との差異を知り、今後の議会活動の向上に繋げていく。
研修で学んだこと・キーワード等	
■1 日目 基調講演 元衆議院議長 伊吹文明氏 「主権を預かる誇りと責任」 首長と議会の立場－ ・二元代表制についての課題 ・国会と違い、地方自治は二元代表制で首長と議員どちらも選挙で選ばれ市長同様、市会議員も主権を預かる立場にある。 ・権力の配分 地方議会の独自性－ ・自治体の中の議会予算を特別会計などで分離。交付税で賄われていることを	

明確にする。 議員の待遇－主権を預かる自負、誇り ・老後や退職後の保証の整備が必要 －資産等がなくても様々な市民の声を集約し市に届ける議員になれる
研修（受講後の感想） 二代表制について、明確にすべき課題について改めて考える機会となった。 整理すべき点として「首長への不信任による首長失職の構造」や「国・県・市の権力の配分」などが挙げられた。権力の配分については国や県からの交付税、補助金がないと維持できない自治体の現実があり、行政運営にあたり国や県の動向で政策への影響が生じる。この点は地方分権にも関わることと思うが、権力の均衡には問題があると感じた。また執行機関を監視する立場にある議会の独自性について、自治体の中の議会予算を特別会計などで分離し交付税で賄われていることを明確にすることは市民への説明責任や透明性に繋がるのではと考える。そして今回の研究フォーラムのテーマに繋がる議員の待遇については国民の信頼を損なうことがないよう理解を得られる範囲であればよいのではないかと感じた。 最後に、講演の中で「選ばれたものとしての義務を果たし、尊敬される存在に」と、伊吹氏がおっしゃった言葉は選挙で選ばれた者にとって、常に忘れてはいけない言葉であると重く受け止めた。そして今後一層の責任と義務を果たしていきたい。
調査・研修の成果・考察 （瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等） 権限や財源を地方自治体に移し、主権者である住民が、それぞれの地域の実情に応じて地域のことを自ら判断し、責任をもって主体的な政策が可能になると考えられているが、国と地方の役割分担を見直した上で、本当の自立した地方自治を実現しなければならないと考える。
研修で学んだこと・キーワード等 ■1日目 パネルディスカッション 「多様な人材の参画促進の観点から、地方議会議員のなり手不足問題を考える」 ・地方議会議員に対する無関心、もしくは不信が広がる現況と投票率の低下 ・ここ数回の統一地方選挙において、無投票当選者や定員割れが顕著に増加 ・「多様な人材の参画を前提とした議会運営」 ・「住民に開かれた議会のための取り組み」 ・勤労者等の「立候補環境の整備」

「なり手不足問題」の解決に向けた提言

- ・多様な人材の参画として、会議規則による育児介護の取り扱いの明確化
- ・休日開催、通年開催による勤労者の参画
- ・オンライン議会
- ・議員の環境整備(年金・退職金・報酬・子育て介護との両立など)
- ・現役世代が立候補しやすい環境作り
- ・将来世代のための主権者教育－小中学生等に向けた議会への関心や理解
- ・議会の役割など、発信機会創出

研修（受講後の感想）

「地方議会議員に対する無関心」については、地方議員に限らず政治の不透明さや員の不適切・誤解を招くような行為等が一因となり政治・議員全体に信頼のなさが広まっているのではと考える。議員を志す方の中には、こうした不信感から現状を変えたいという思いで立ち上がる方も存在すると考える。しかし地方自治体の中には、議員専業で生活可能な歳費のない議会もある。

議員になるにあたっての不安として退職金がないこと、老後の国民年金での生活、プライバシーや家族の安全など様々な不安がアンケート結果によって示されていた。

地方制度調査会では、特に小規模団体において議員報酬が低水準であることがなり手不足の一因であるとの指摘がある。全国的に見て、このような課題が、立候補にあたっての大きな不安になると言うことを認識した。志ある優秀な人材や様々な専門分野の方が、このような不安を理由とし、もしも立候補することを決断できずにいるとするならば、市民にとっての不利益ではないかと感じる。また、育児・介護・家庭生活との両立については、議会側においては可能な限りの議会環境を整えていく必要があると考えるが、家族の理解や周りの支援も重要で、活動に関して自分なりのスタイルを築かなければならないと考える。

なり手不足と言う課題には多くの問題が関わっており、それは自治体・地域の特性、候補者となる方々、それぞれで不安要因が違ふことから、本市議会として将来、なり手不足の問題があれば現状を調査し、課題解決に動く必要があると感じた。

調査・研修の成果・考察

（瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等）

瀬戸市の市議会議員選挙では、定数割れや無投票当選は起きていないことから、現状では、なり手不足は見られないと考えるが、社会環境の変化から、様々な不安を背景に今後本市でも候補者が減少する可能性はある。なり手不足問題の解決については、お金の問題だけではなく、家庭・子育て・介護などとの両立が可能な環境を整えなければ継続した議員活動が揺らぐことから、担保できる仕組み作りは必要。

また、なり手不足の課題への取り組みは、多様な人材の参画を充実させるという視点においても有効と考える。昨年度、本市議会では育児介護との両立など、働き

やすい環境整備としてオンライン委員会の整備を行っているが、今後も必要であれば環境整備のための取り組みについて検討する必要があると考える。

さらに、このパネルディスカッションでは議員の魅力・活動実態について知っていただくことの必要性も確認された。札幌市議会議長からは主権者教育の取り組みとして、札幌市議会「キッズページ」を設けたり、市内小中学生に夏休み中の議場見学の機会や区役所と連携した「子供まちづくり体験塾」では議会事務局が議会の役割を説明するなど、議会について様々な発信を行う機会を作っている。また宇部市議会議長からは多様な人材の参画促進の観点から、議会に対する関心と理解を深めるための取り組みとして主権者教育の事例が紹介された。宇部市では、高校生議会が行われ、生徒たちが市のまちづくりに関する質問を通告。市長と担当部長が答弁を行ったことなどが紹介された。将来のなり手としての期待がうかがえるが、高校生が自分たちの住む街について関心を持ち、より良い街にしていこうという意識を持っていただくことは大切で加えて、議会の役割、議員の仕事、行政との関係を学んだり、見学や実践などの体験を通じて理解を深めたりすることが重要と考える。

こうした取り組みはまちづくりの活性化にもつながり、議会にとっても将来のなり手不足を防ぐためにも有効と考える。瀬戸市議会でも、小中学生の議場見学や議会の役割等について説明する機会を設けることから始めてみても良いのではないかな。

研修で学んだこと・キーワード等

■2日目課題討議「地方議会議員のなり手不足問題の取り組み報告」

- ・なり手不足に対する危機感が顕在化
- ・議会内の環境整備
- ・市民と対話の機会
- ・議会の見える化(SNSを含めた情報発信)
- ・魅力ある報酬
- ・立候補の足かせとなり得る制限の緩和
- ・取り組みの持続性

研修（受講後の感想）

事例報告者は、長野県岡谷市、鹿児島県南さつま市、石川県白山市の議長等3名。その中で人口約45,000人の岡谷市では定数割れにより、飛び込み申請や支援者がいないと思われる候補者まで当選。なおも不足し、再選挙を行ったとの話があった。驚きであり、なり手不足を抱える自治体の深刻さを感じた。また、人口約112,000人の白山市では、令和3年の選挙で議員のなり手不足に対する危機感が顕在化。両市とも議会内の環境整備などの議会改革、市民への働きかけとして市民と対話の機会を設けたり、「議員のなり手不足」等について全議員の政務活動費を使ってシ

ンポジウム開催をするなどした。

岡谷市議会では、シンポジウムや対話集会でのアンケート結果を踏まえて、定数や報酬について結論を示すとし、アンケート結果は、議員定数について「削減する」が 59%。また報酬については「現状で良い」が 45%であった。今年 6 月には定数を 18 から 16 に削減している。

いずれも、かなりの危機感があったのかと思うが、積極的な市民への働きかけに感心し、議会が一丸となって課題に取り組んでいるという印象を受けた。

白山市では、取り組むべきこととして・議会の見える化、SNS を含めた情報発信・市民との対話、広聴活動の拡充・魅力ある報酬・立候補の足かせとなり得る制限の緩和等が確認されている。

課題としては・議会では様々な取り組みが行われているが、そうした「取り組みの持続性をどうするのか」「改選などでキーパーソンがいなくなると持続しない」と言った課題が上がった。取り組み自体は、マニュアル化してしまえば続けることはできるが、新たなものも含め積極的な取り組みを持続させていくには、そうしたキーパーソンがいなければなかなか難しいのかもしれない。また、コーディネーターから「なり手不足解消で候補者が増える事は自身の落選につながるのではないか」との問いに、報告者からは、「仲間を増やそうとしたら、自分が落選した」との経験談があった。票を割ることになる等、身を切ることになるかもしれないが、それでも取り組むべき重要な課題であると感じた。

調査・研修の成果・考察

(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

白山市の意見交換会では、「議員のなり手不足の解消」や「投票意識の向上」、「適正な議員報酬」等をテーマに意見交換がされ、市民がより議会のことを考えるきっかけになったと考える。本市議会でも市民との意見交換会で議会に関するテーマを設定するのも良いのではと思う。

また、岡谷市議会でのシンポジウムや対話集会でのアンケート結果を踏まえて、定数や報酬について議論を交わし、結論を出しているのは市民意見を参考にすることでそうした議論に市民も参加しているということになると考えることから、今後瀬戸市議会でも様々な判断材料が検討されるべきと考える。

行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.jorudan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃		特急料金 等	
7 年 8 月 27 日	尾張瀬戸	名鉄	片道	大曽根	16	km	460	円		円
	大曽根	JR	片道	金山	6.5	km	210	円		円
	金山	名鉄	片道	中部国際空港	35.7	km	910	円	450	円
	中部国際空港	飛行機	片道	新千歳空港	988	km	31,720	円		円
	新千歳空港	JR	片道	札幌	46.6	km	1,230	円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
	ホテルマイステイズ札幌駅北口				011-729-4055		18,700 円			
備考欄										

53,680 円

日付	出発駅	交通手段	片道／往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃	特急料金	等	
7 年 8 月 28 日	札幌	JR	片道	新千歳空港	46.6	km	1,230	円		円
	新千歳空港	飛行機	片道	中部国際空港	988	km	23,800	円		円
	中部国際空港	名鉄	片道	金山	35.7	km	910	円		円
	金山	JR	片道	大曽根	6.5	km	210	円		円
	大曽根	名鉄	片道	尾張瀬戸	16	km	460	円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
										円
備考欄										

小計 26,610 円

日付	出発駅	交通手段	片道／往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃		特急料金	等
年 月 日						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
							円			
備考欄										

パック等による割引など

小計 0 円

円

宿泊費 合計

交通費 合計

18,700 円

61,590 円

鉄道代合計：6,070円

申請額合計
(宿泊費+交通費-割引代)

80,290 円